



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	男性看護師の継続教育の経験
Author(s) 著 者	新保, 綾子
Degree number 学位記番号	第 84 号
Degree name 学位の種別	修士 (看護学)
Issue Date 学位取得年月日	2014-03-31
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

修士論文の内容の要旨

保健医療学研究科 博士課程前期 看護学専攻 看護教育学分野	学籍番号 10MN01 氏 名 新保 綾子
論文題名 (日本語) 男性看護師の継続教育の経験	
論文題名 (英語) Continuing educational experiences of male nurse	
<p>研究目的</p> <p>男性看護師に対する継続教育のあり方への示唆を得るために、男性看護師の継続教育の経験を明らかにする。</p> <p>研究方法</p> <p>要件を満たす男性看護師を対象にインタビューを行い、これまで取り組んだ学習とそれが対象者にとってどのような経験であったかを聞きとった。データ分析には質的帰納的に人間の行動や経験を表す概念の創出を試みる看護概念創出法を用いた。</p> <p>研究結果</p> <p>要件を満たし研究に同意の得られた12名の男性看護師にインタビューを実施した。</p> <p>対象者から得られたインタビュー内容から抽出されたコードの総数は136であった。この136コードから、60サブカテゴリ、34カテゴリ、12のコアカテゴリ(概念)が創出された。これらの結果から、男性看護師が【1. 周囲に用意された機会を受けて受け身で取り組んだ学習】【2. 役割拡大による活動の制約とキャリアアップの方向性の迷い】【3. 専門性向上志向による学習・進路選択】【4. 実践能力獲得に向けた主体的学習と意義の自覚】【5. 学習内容理解・活用による看護実践の充実・自信獲得と学習不足による理解困難】【6. 学習活動による学習基盤の獲得】【7. 仲間意識の発生による女性多数集団における男性看護師の結束による学習活動】【8. ロールモデルの有無に影響を受けた学習</p>	

活動】【9. 伝統的性役割に基づく学習意欲と男性看護師への成長期待と行動のコントロール】【10. 男性であることによる制約と期待】【11. 男女の特性の知覚と活用】【12. 学習活動と家庭維持の両立】という継続教育の経験をしていることが明らかになった。

考察

男性看護師は自己の意思で理解の深化や能力向上を目指す経験をしており、これは男性看護師のキャリア発達を促進する大きな要因となっていると考えられた。自律した男性看護師が自らの専門性の向上への欲求と期待を実現しようとし、生涯を通じて学習する自覚を持っていることが推察できた。また、役割に就くことにより経験に相違がみられ、役割を与えられることを肯定的に受け止め、専門職として自らの責任において自主的に学習する経験は継続教育の基盤となっていると考えられた。男性看護師は学習することにより知識を得てそれが看護ケアに反映されるということを職業経験を通して実感できており、これは学習の意味が捉えられているからこそ生じる認識だと推察された。学習の仕方、習慣等の学習基盤の獲得は高い学習効果をあげる上で、欠くことができない要素であり、男性看護師は学習経験の積み重ねによりこれを獲得していた。加えて、男性看護師は看護職という女性多数集団における少数者であるがゆえに生じる経験をしていた。少数者である男性看護師が集結することで学習活動を促進し、目標や立場を共有できる者同士の支えが、学習のきっかけや継続の要因となっており、男性看護師にとって働きやすい環境づくりのためには、同じ立場を経験している男性看護師の存在が重要であると考えられた。さらに、男性看護師は男性看護師を取り巻く環境の性役割観に影響を受け、男性であることを強く意識している姿がうかがわれた。男性であることにより、他の女性看護師よりも活動の幅が狭められたり、型にはまった見方で扱われることなく、性別を一つの特性と捉え、男性看護師の長所を引き出し活躍を支援していく必要性が示唆された。さらに男性看護師は経済的に自立し、生活構造の中心となる仕事や家庭の維持に力を注ぎながら学習活動を両立させるという経験をしていた。

以上より男性看護師の継続教育を促進するためには、男性看護師同士が支えあい、互いを高めあっていく集団形成を支援していくことが効果的であると考えられた。

キーワード（5個以内）：

男性看護師 継続教育 キャリア 性役割

Purpose

To obtain information on the state of continuing education of male nurses and suggestions for future directions, their experience with continuing education was investigated.

Methods

Data were collected from male nurses employed at hospitals through semi-structured interviews. The data were analyzed through qualitative induction using the concept of nursing based on their actions and experiences.

Results

Male nurses (n=12) who satisfied the research criteria and from whom informed consent was obtained were interviewed. A total of 136 items were extracted from the interviews of the subjects. From these 136 items, 12 core categories (concepts), 34 categories and 60 subcategories were created. The 12 core concepts were as follows: 1. Learning passively in response to the opportunities provided, 2. Ambivalence about career direction as a result of the constraints imposed by expansion of activities, 3. Study and career-oriented options motivated by a desire to improve professional skills, 4. Awareness of the significance of, and proactive learning to acquire, practical skills, 5. Acquisition of confidence through study and actual nursing practice, and difficulties encountered due to lack of learning, 6. Acquisition of fundamental knowledge through learning activities, 7. Learning activities resulting from camaraderie among male nurses in a profession in which women predominate, 8. Learning activities affected by the presence or absence of role models, 9. Motivation for learning based on the traditional gender role, growth expectations for male nurses, and behavioral control, 10. Limitations and expectations as a result of being male, 11. Uses and perceptions of the characteristics of men and women, and 12. Good balance between learning and family activities.

Discussion

The experiences of male nurses helped them to improve their abilities and deepen their understanding, which also appeared helped to promote their career development. It could be inferred, through the development of self

sufficiency, that male nurses had a conscious desire to improve their expertise and to learn throughout life. In addition, differences in experience were observed according to the role of the nurse. It was considered that they had positive attitudes toward their given roles, taking responsibility to study independently as professionals and develop a foundation for continuing education. The work experience and studying of male nurses was reflected in the nursing care they provided. This was presumed to indicate their recognition of the importance of studying and the high effect of acquisition of a solid foundation for habitual study. In addition, male nurses had the experience of being a minority among nurses. They promoted learning activities through solidarity. Mutual support among persons who shared the same position and goals was an important factor in the creation of opportunities to continue learning. Thus, to create an environment in which it is easy for male nurses to work, the presence of male nurses who have experienced the same situation is important. In addition, in view of the environment surrounding the male nurses, they had a strong sense of their gender role as males. To fully utilize the capabilities of male nurses, we need to continue to support their activities and emphasize their merits. In addition, male nurses need to be financially independent, and have to achieve a balance between work and home.

In conclusion, to facilitate the continuing education and professional betterment of male nurses, we should provide them with the opportunity to form mutual support groups that will enhance their working environment and professional abilities.

Key words

Male nurse Continuing education Career Gender role

- 1 論文内容の要旨は、研究目的・研究方法・研究結果・考察・結論等とし、簡潔に日本語で 1,500 字程度に要約すること。併せて英語要旨も日本語要旨と同様に作成すること。
- 2 2 枚目からも外枠だけは必ず付けること。

論文審査の要旨及び担当者

報 告 番 号	第 84 号	氏 名	新保 綾子
論文審査 担 当 者	主 査 大日向輝美 (看護学科看護学第一講座) 副主査 齋藤 重幸 (看護学科基礎臨床医学講座) 副主査 城丸 瑞恵 (看護学科看護学第一講座)		
<p>論文題名：男性看護師の継続教育の経験</p> <p>我が国の看護師の中で男性の占める割合は年々増加しているが、継続教育に係わる従来の研究は女性看護師を対象に行われており、男性看護師には着目されてこなかった。</p> <p>本研究は、男性看護師に対する継続教育のあり方への示唆を得るために、男性看護師の継続教育の経験を明らかにするものである。</p> <p>対象者は一定条件を満たした男性看護師 12 名であり、継続教育の経験に関するインタビューによりデータを収集した。データ分析は看護概念創出法に基づいて行い、逐語記録として文字化したインタビュー内容を段階的にコード化し、サブカテゴリーからカテゴリーに抽象度を高め、最終的に 12 のコアカテゴリーを創出した。</p> <p>男性看護師の継続教育の経験には、看護師であれば性に関係なく共通する経験と、女性多数集団における少数者であるがゆえに生じる経験が見いだされた。男性看護師は役割を与えられることを肯定的に受け止め、専門職としての能力向上のために生涯を通じて自己研鑽する必要性を認識していた。一方で、自身を取り巻く環境の性役割観に影響を受け、男性であることを強く意識して行動するなど、少数者としての経験を自覚していた。また、男性看護師の学習活動には、目標を共有し立場を共感し合える男性同士の支え合いが重要な意味を有していることが示された。</p> <p>男性看護師の継続教育を促進するためには、男性看護師同士が支え合い高め合っていくための集団形成を支援するなど、性の特徴に即した対応が必要であることが示唆された。</p> <p>審査委員会では、文献概観と考察に解りづらい記述があること、考察の一部に論拠の曖昧な箇所があること、対象者の基礎教育課程の偏りが結果に及ぼす影響について記述されていないこと、等の指摘を受け、文献概観と考察の記述を修正するとともに、対象者の偏りについては研究の限界として追記した。</p> <p>本研究の成果は、我が国において未着手であった男性看護師に対する継続教育を検討する上で示唆を与えるものであり、よって著者は修士（看護学）の学位を授与される資格があると認める。</p>			

※報告番号につきましては、事務局が記入します。